

2010年3月期 決算説明資料 (2009年4月～2010年3月)

2010年5月18日(火)

東洋合成工業株式会社

■ 目次

1. 2010年3月期 決算概要 P 3～
2. 2011年3月期 見通し P17～
3. 今後の展望 P20～

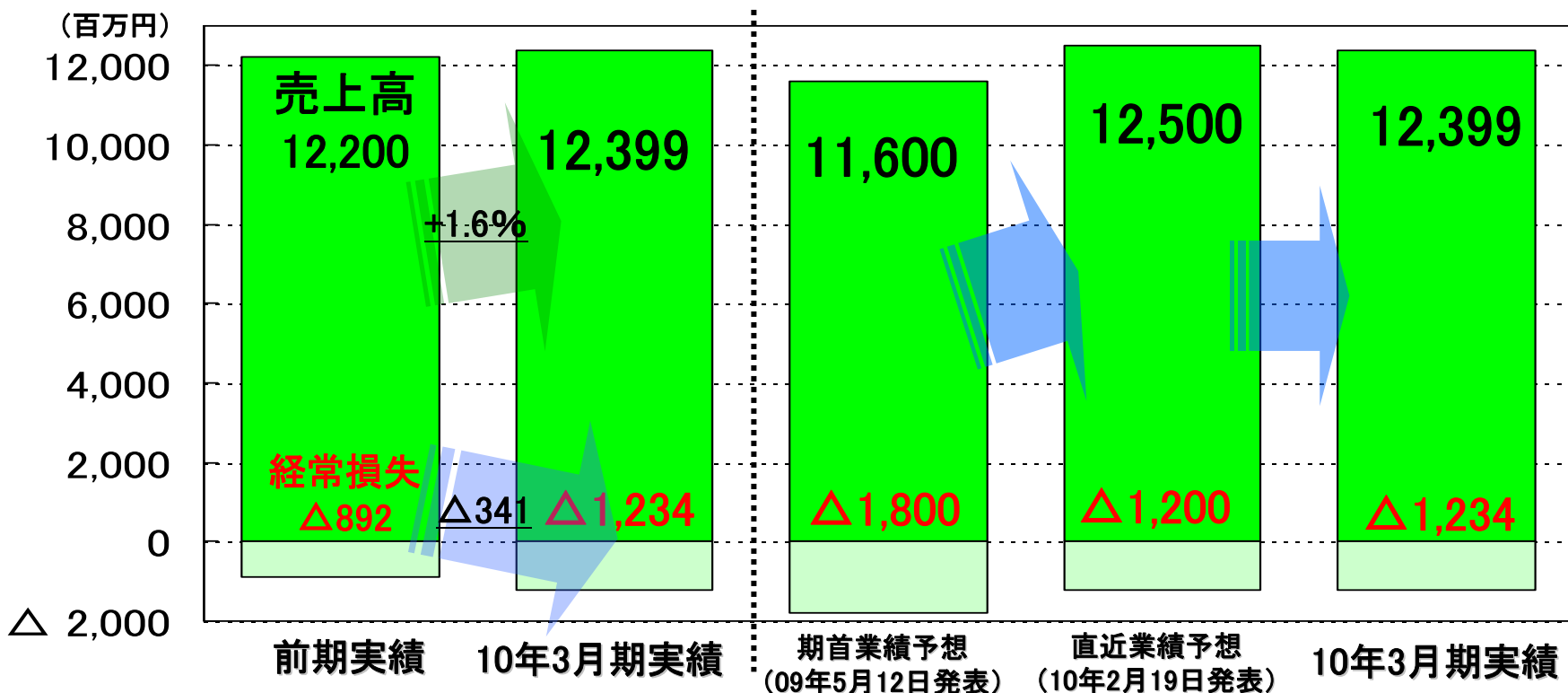
1 . 2010年3月期 決算概要

2010年3月期決算のポイント

・前期比: 売上+1.6% 経常利益△341百万円

- 世界的な景気減速により1Qまでは、生産量の減少を余儀なくされたものの、徐々に市況が回復。生産量の増加、および生産コストの低減により赤字幅が4Qにおいて大幅に縮小。化成品事業の売上比率は増加傾向。

・計画比: 直近の業績予想に対してはほぼ計画通り。

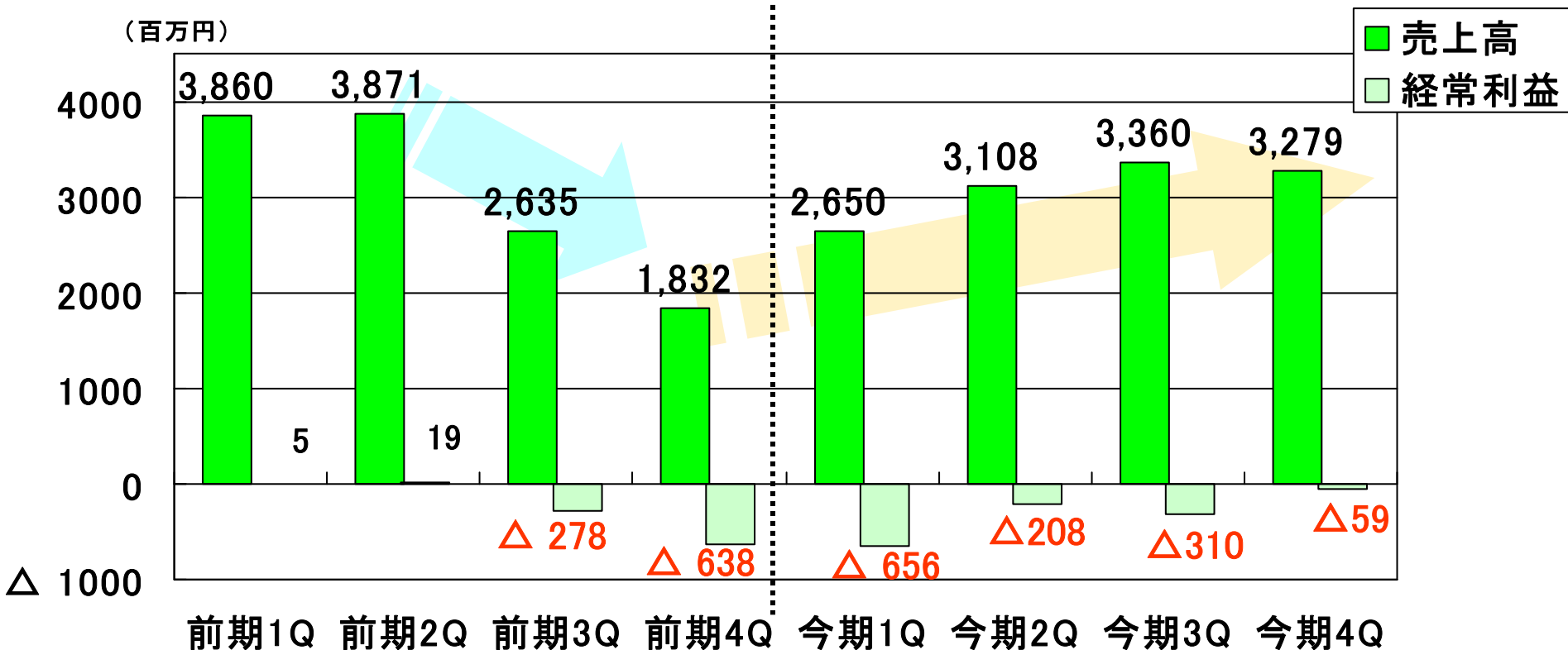


2010年3月期より前期まで非連結子会社であった(株)トランスパレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

■ 全社 売上・経常利益 四半期別推移

売上・・・感光材の市況回復、化成品の積極的な営業活動により
前期4Qをボトムに増加傾向。

利益・・・人件費削減・設備投資の抑制による固定費の削減や徹底した経費の見直し、
および在庫の圧縮(△18億円)により現金流出を抑制。
生産量減少により、前期3Q～今期3Qまで大幅な赤字の計上が続いたものの、4Qでは
本格的な受注の増加を背景に赤字を大幅に圧縮。



■ 2010年3月期 決算概要(事業別前期比P/L)

科目 (百万円)	2009年 3月期 実績(非連結)	2010年 3月期 実績(連結)	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	12,200	12,399	+198	+1.6%
感光性材料	6,230	6,081	△149	△2.4%
化成品	5,970	6,317	+347	+5.8%
営業利益	△673	△1,052	△379	—
感光性材料	△1,115	△1,430	△315	—
化成品	444	377	△67	△15.0%
経常利益	△892	△1,234	△341	—
当期純利益	△964	△1,351	△387	—

2010年3月期より前期まで非連結子会社であった(株)トランスパレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

2010年3月期 損益計算書

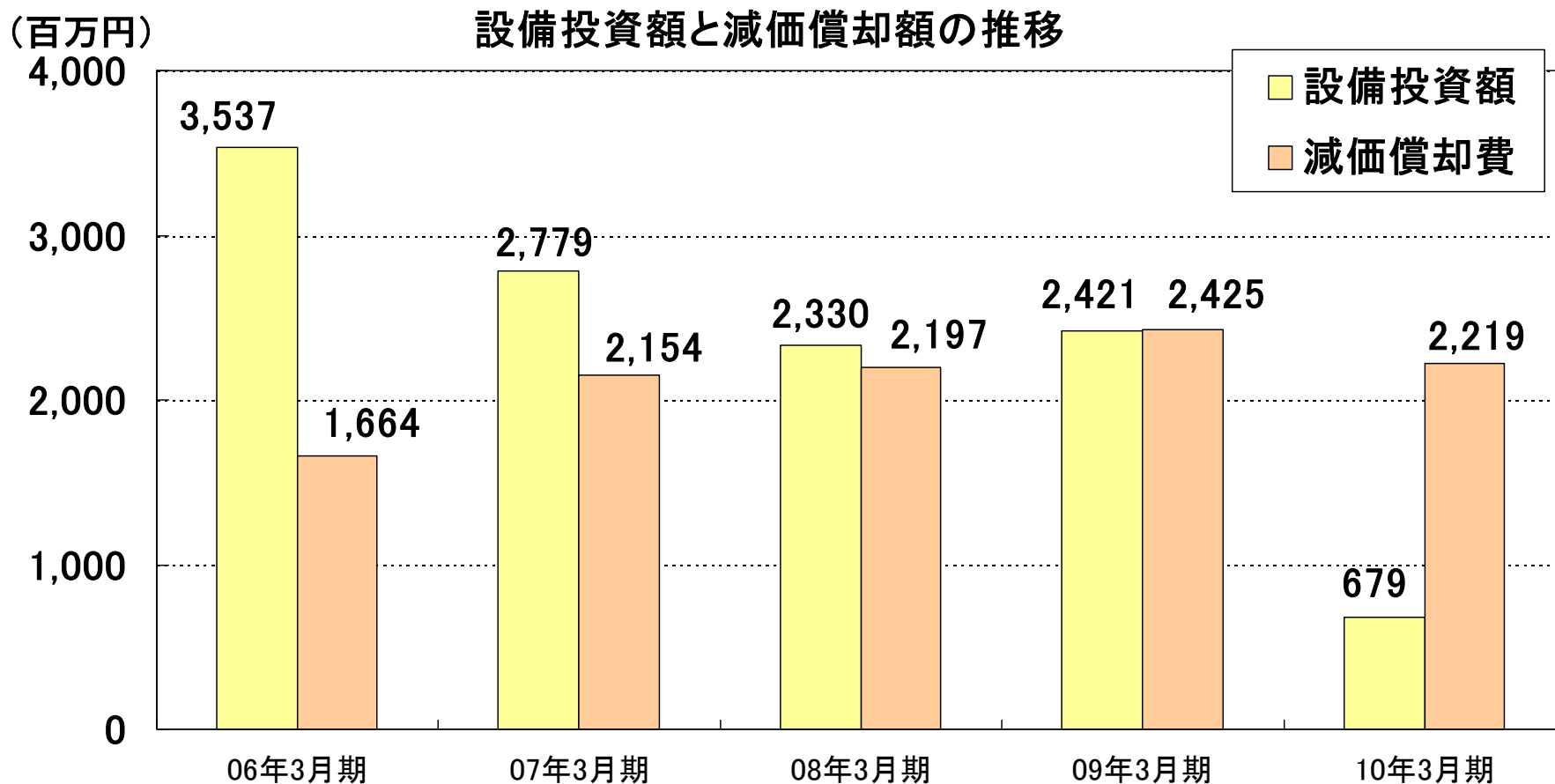
- ①売上・売上原価 ……売上が1.6%増えたものの、第1Qの稼働率低下による生産量の減少が影響し、売上原価は6.8%増。
 ②販売管理費 ……本社部門・研究所部門の人件費および経費の削減により7.2%減。
 ③営業外収益・費用 ……借入金の圧縮による支払利息の減少等により15.9%減。
 ④特別利益・損失 ……特別利益:前期の受取保険金の影響 特別損失:固定資産除去損129百万円。
 ⑤法人税等 ……前期の繰延税金資産の全額取り崩しによる影響。

科 目 (百万円)	2009年 3月期(非連結)	2010年 3月期(連結)	対前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	12,200	12,399	+198	+1.6%
売上原価	10,764	11,494	+729	+6.8%
売上総利益	1,436	905	△531	△37.0%
販売管理費	2,109	1,957	△151	△7.2%
営業損失(△)	△673	△1,052	△379	-
営業外収益	126	109	△17	△13.5%
営業外費用	346	291	△54	△15.9%
経常損失(△)	△892	△1,234	△341	-
特別利益	704	19	△685	△97.2%
特別損失	415	129	△285	△68.8%
税引前当期純損失(△)	△602	△1,343	△740	-
法人税等・少数株主持分利益	361	7	△353	△97.9%
当期純損失(△)	△964	△1,351	△387	-

2010年3月期より前期まで非連結子会社であった㈱トランスパレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

■ 設備投資と減価償却費の実績

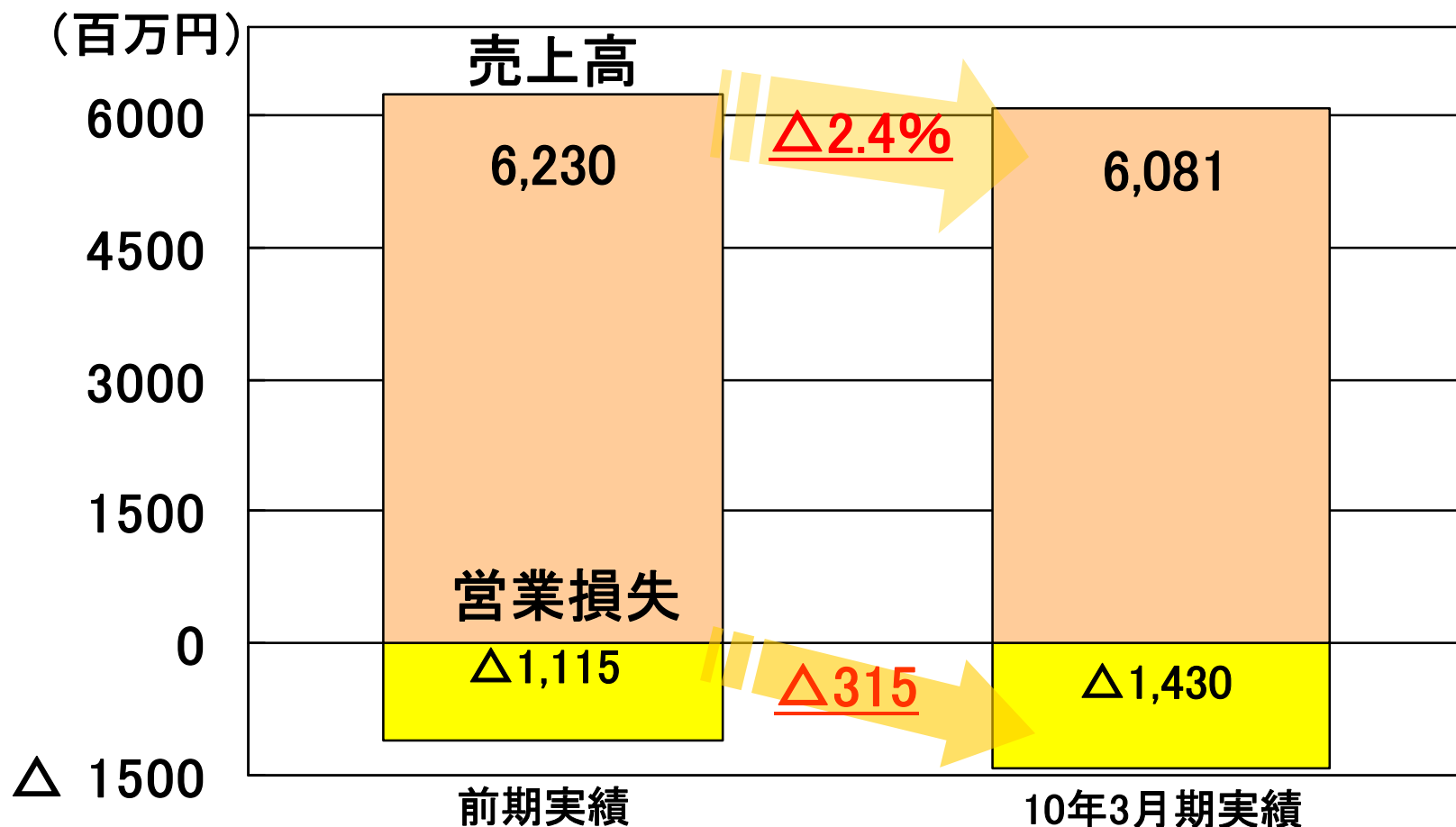
- ・ 運転資金の確保・固定費削減の為、設備投資を679百万円へ抑制。
 - 約3億円の火災復旧費用は保険金でカバーされ、実質的な投資額は3億円程度。
- ・ 減価償却費は、前期比で206百万円の減少。



感光性材料事業 売上高・営業利益

売上高は、前期比2.4%減少。営業利益は、前期比315百万円の減少。

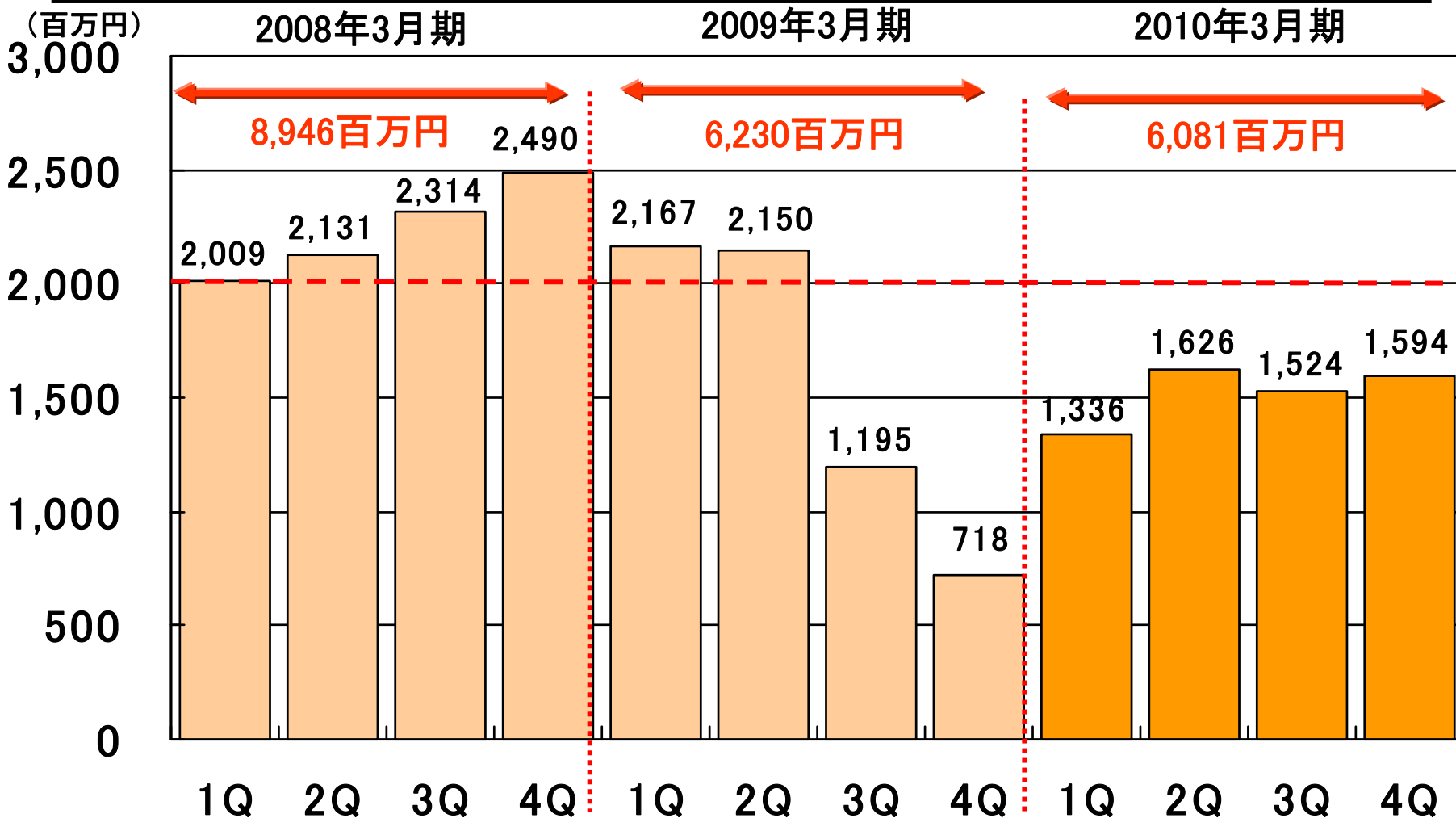
- 2Qより売上高は、液晶・半導体の市況の回復を背景に増加傾向
- 感光材部門は千葉工場の生産量が増加し、第4四半期において損益分岐点まで回復。エネルギー部門および新規事業部門は先行投資段階。



■感光性材料事業 売上高 四半期別推移

前期4Qをボトムに売上高は回復傾向。

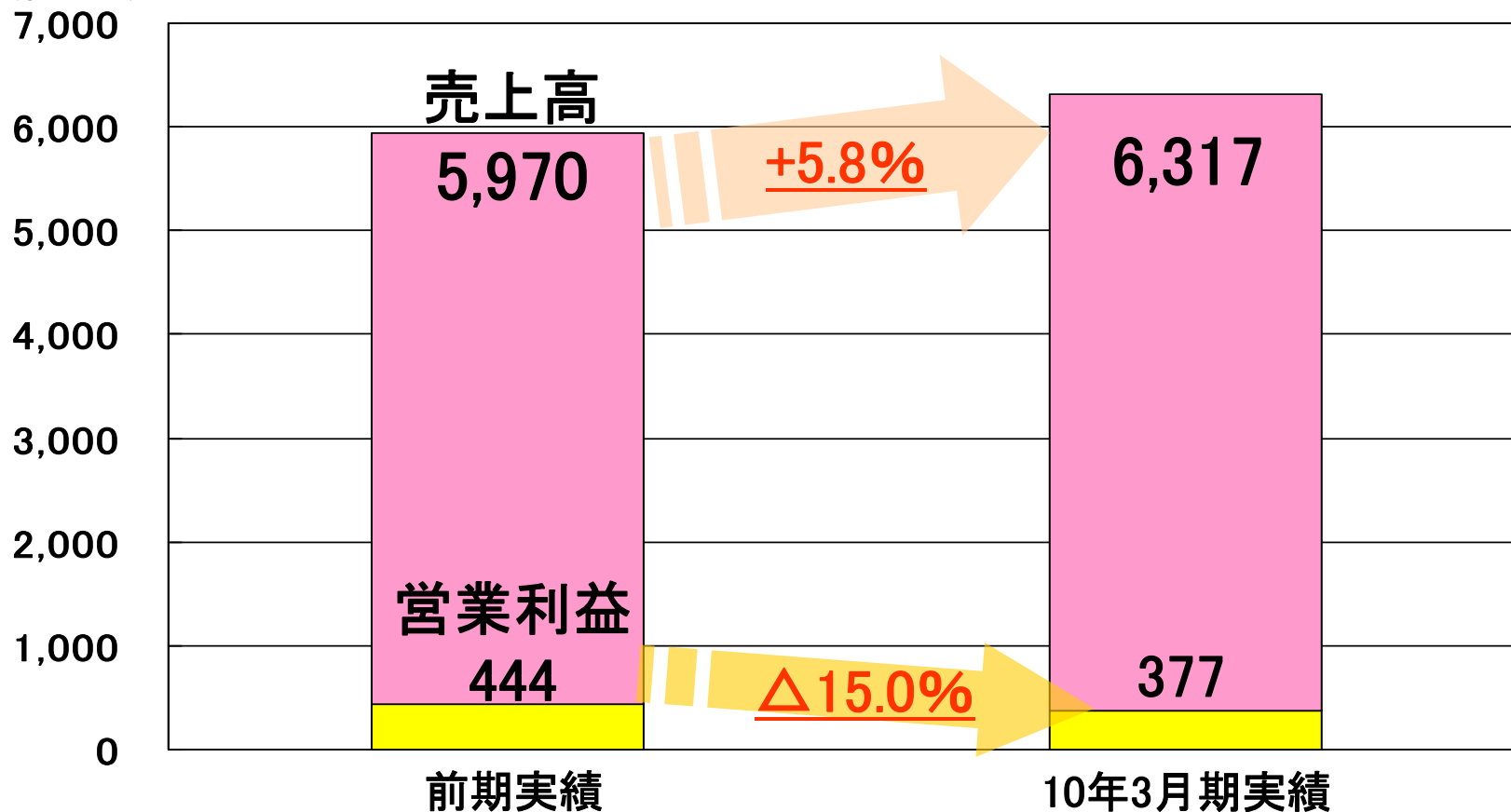
- 1Q~2Qは積み上がった在庫の消化に注力。生産量の本格的な増加は2Qの後半から。
- 足元は適正な在庫水準に回帰し、安定した生産計画のもと製造原価の低減に努める。



■ 化成品事業 売上高・営業利益

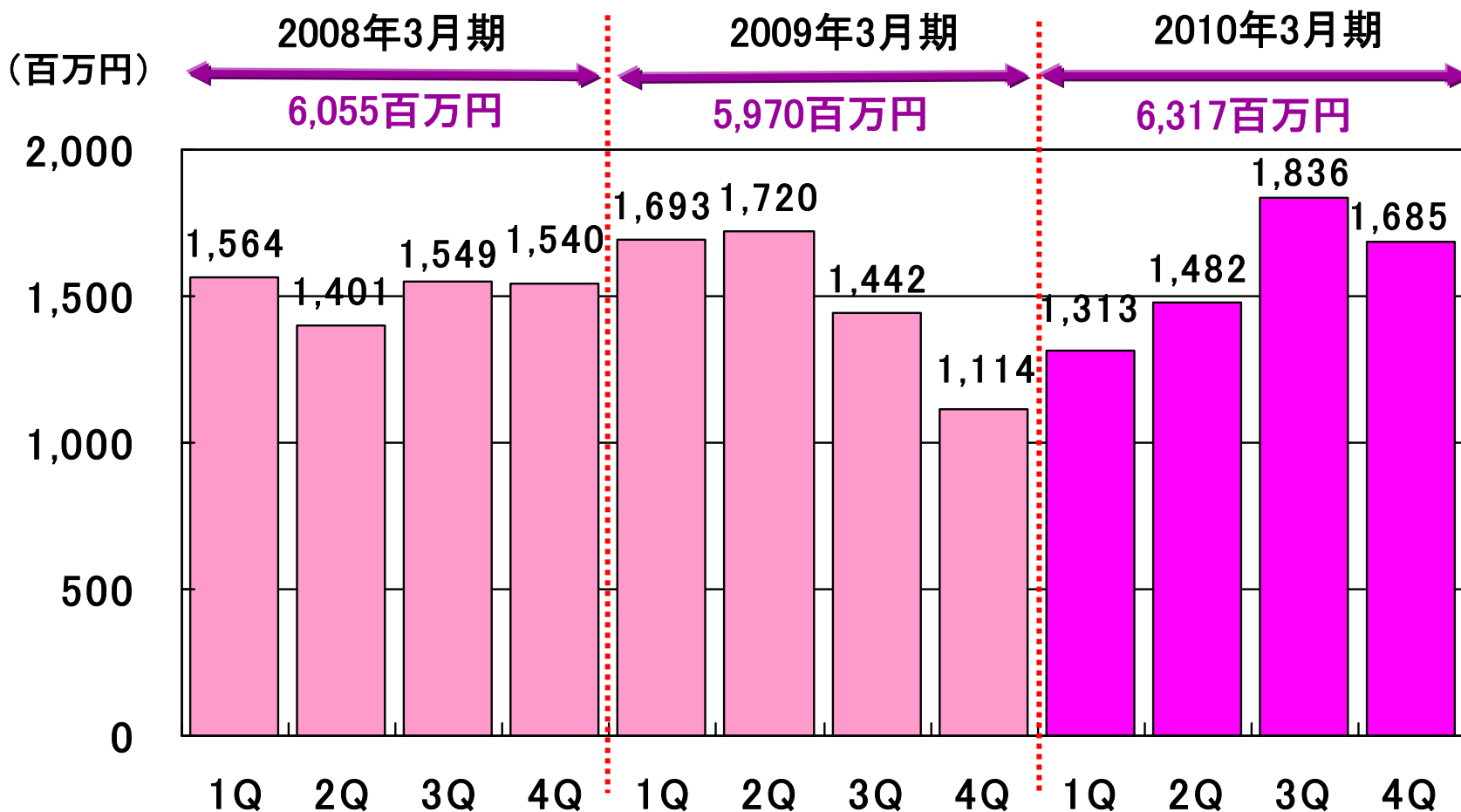
- 売上は、前期比+5.8%の増加。営業利益は前期比△15.0%の減少。
 - 香料材料部門は積極的な営業活動により、3Qより増加。グリーンケミカル部門も3Qから市況が回復。
 - 1Qにおける在庫調整が影響し、利益を圧迫したものの以降は堅調に推移。
 - ロジスティック部門は、引き続き堅調。荷動きも増加傾向。

(百万円)



■ 化成品事業 売上高 四半期別推移

- 香料材料部門 ……新規受注製品の売上が本格化。化成品事業の売上牽引役。
- グリーンケミカル部門 ……電子材料向け中心に3Qより回復。
- ロジスティック部門 ……タンク契約率は高水準維持。荷動き量も回復傾向。



2010年3月期 貸借対照表

- 在庫の削減、設備投資の抑制に努め、資産額を27億円圧縮(前期比△10%)
- 借入金は11億円削減(前期比△8%)

科 目 (百万円)	2009年 3月期(非連結)	2010年 3月期(連結)	対前期比	
			増減額	増減率(%)
流動資産	8,579	7,588	△991	△11.6%
現金預金	925	1,329	+404	+43.7%
売上債権	1,254	2,234	+979	+78.1%
棚卸資産	5,760	3,928	△1,831	△31.8%
その他	639	95	△543	△85.0%
固定資産	16,981	15,247	△1,734	△10.2%
有形固定資産	15,615	14,147	△1,467	△9.4%
無形固定資産	688	574	△113	△16.6%
投資その他の資産	678	525	△153	△22.6%
資産合計	25,561	22,835	△2,726	△10.7%
流動負債	10,360	9,957	△403	△3.9%
買掛債務	1,248	1,809	+560	+44.9%
短期借入金	7,609	7,300	△309	△4.1%
その他	1,502	847	△654	△43.6%
固定負債	7,969	6,995	△973	△12.2%
長期借入金	6,245	5,406	△839	△13.4%
その他	1,723	1,589	△133	△7.8%
負債合計	18,330	16,953	△1,376	△7.5%
純資産合計	7,231	5,882	△1,349	△18.6%
負債純資産合計	25,561	22,835	△2,726	△10.7%
運転資金 合計	5,766	4,353	△1,412	△24.5%
借入金 合計	13,855	12,706	△1,148	△8.3%

2010年3月期より前期まで非連結子会社であった(株)トランスパレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

2010年3月期 キャッシュフロー計算書

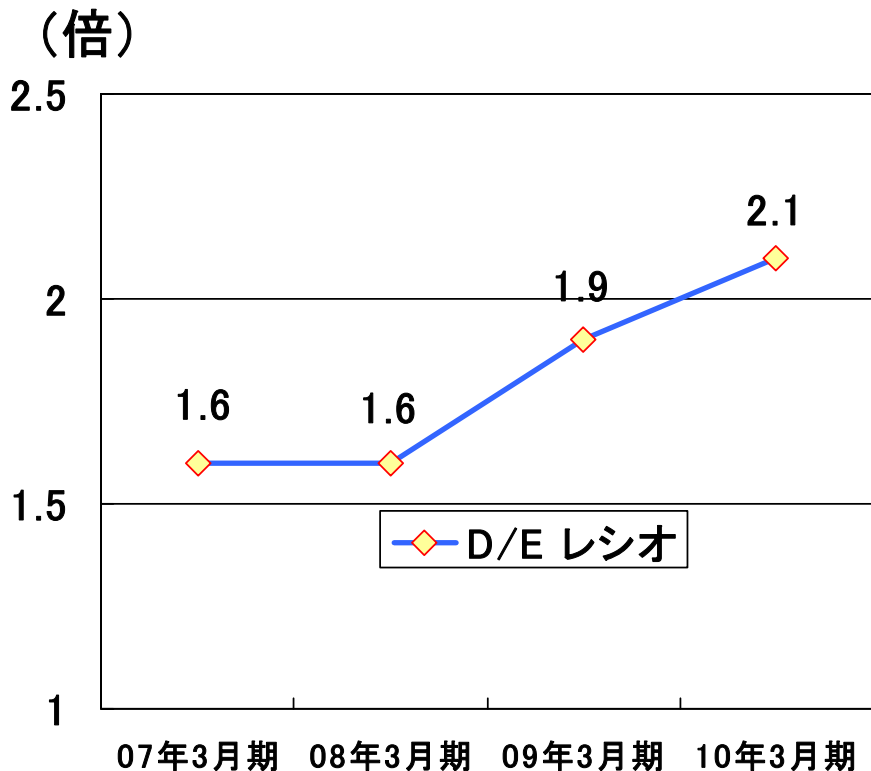
- 在庫の削減および設備投資の抑制により、フリー・キャッシュフローを創出。
- 借入金削減の結果、財務活動によるCFは12億円減少。

科 目 (百万円)	2009年 3月期(非連結)	2010年 3月期(連結)	前期比 増減額
営業活動によるCF	1,532	3,075	+1,542
税金等調整前純利益(損失)	△602	△1,343	△740
減価償却費	2,424	2,219	△205
売上債権の増減額	1,728	△978	△2,707
たな卸資産の増減額	△1,175	1,832	+3,008
仕入債務の増減額	△1,044	559	+1,604
その他	202	785	+582
投資活動によるCF	△2,520	△1,560	+959
フリー・キャッシュフロー	△987	1,514	+2,501
財務活動によるCF	399	△1,227	△1,626
現金及び現金同等物の増減	△588	539	+1,128
現金及び現金同等物の期末残高	405	829	+424

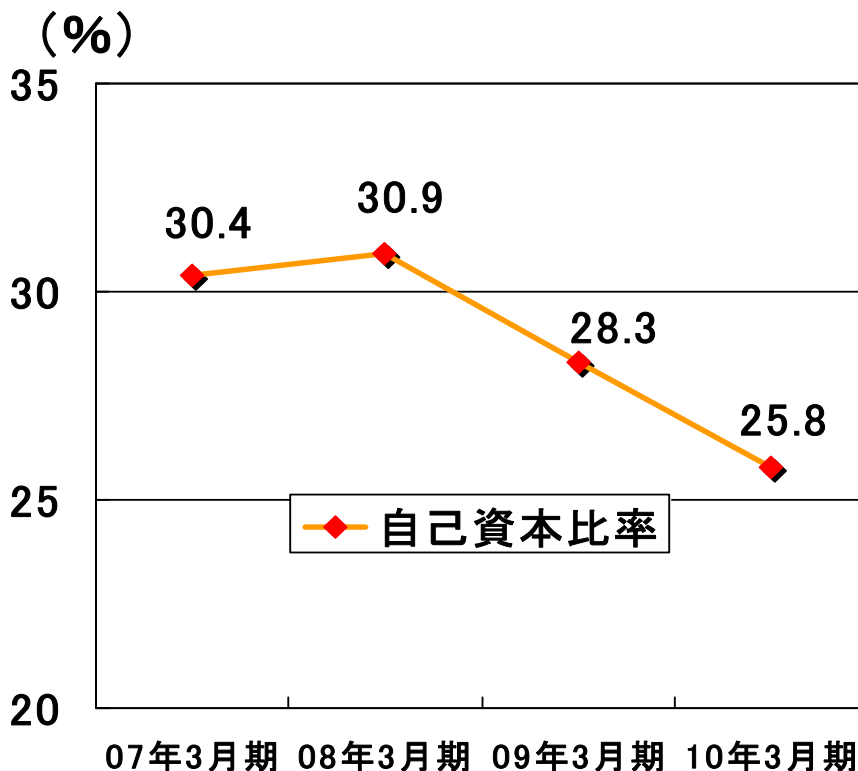
2010年3月期より前期まで非連結子会社であった㈱トランスパレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

■ 「D/Eレシオ」・「自己資本比率」の推移

- ・前期及び今期の損失により、財務指標は悪化傾向。
- ・借入金の削減、および早期の黒字化を目指す。



D/E(デッド・エクイティ)レシオ = 借入金 / 純資産



自己資本比率 = 純資産 / 総資産

2010年3月期の重点課題（結果報告）

- 営業・研究を強化し、需要確保
⇒ 感光材:最先端の半導体向け売上増。 化成品:香料部門の新規受注品増。
- コスト管理を強化し、損益改善
⇒ ERPシステム活用による「コストの見える化」にもとに変動費・固定費分析を強化し、コスト削減施策へ反映。
- 被災設備の復旧は完了。安全管理は継続的に強化
⇒ 今後も安全管理の徹底化を図る。

60期上期

60期下期

営業・研究の強化

開始

損益改善

ERP活用

損益改善

感光材第二工場

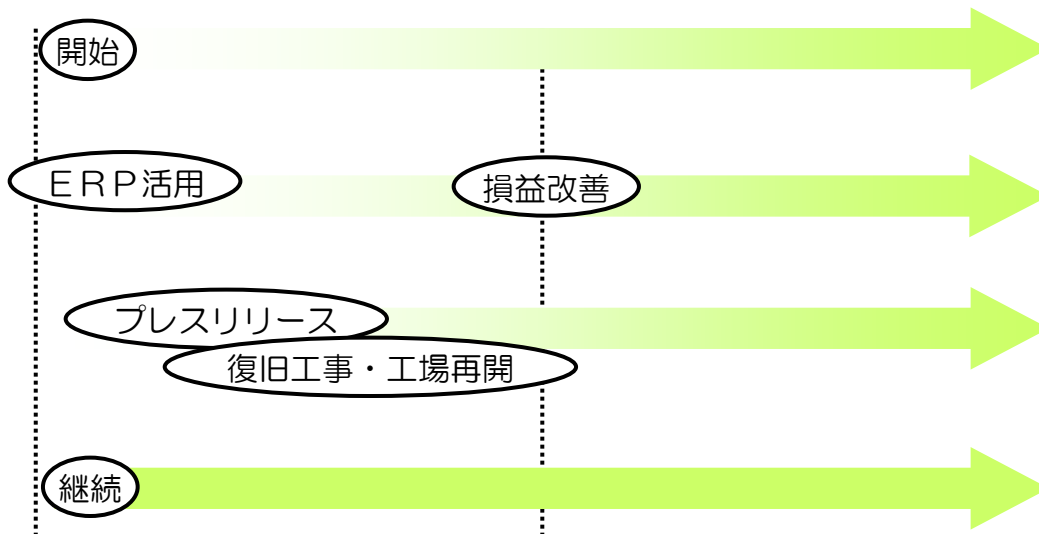
プレスリリース

電気室火災事故復旧

復旧工事・工場再開

安全管理強化

継続



2. 2011年3月期 見通し

■ 2011年3月期 計画(参考資料)

- ・売上高は、上期で7,000百万円、下期で7,500百万円。
- ・利益は、上期で年間の約7割を占める計画。
 - 前提条件 原油価格が年度末に向けて90ドル/bblに上昇すると予測。下期に材料費の増加を織り込む。

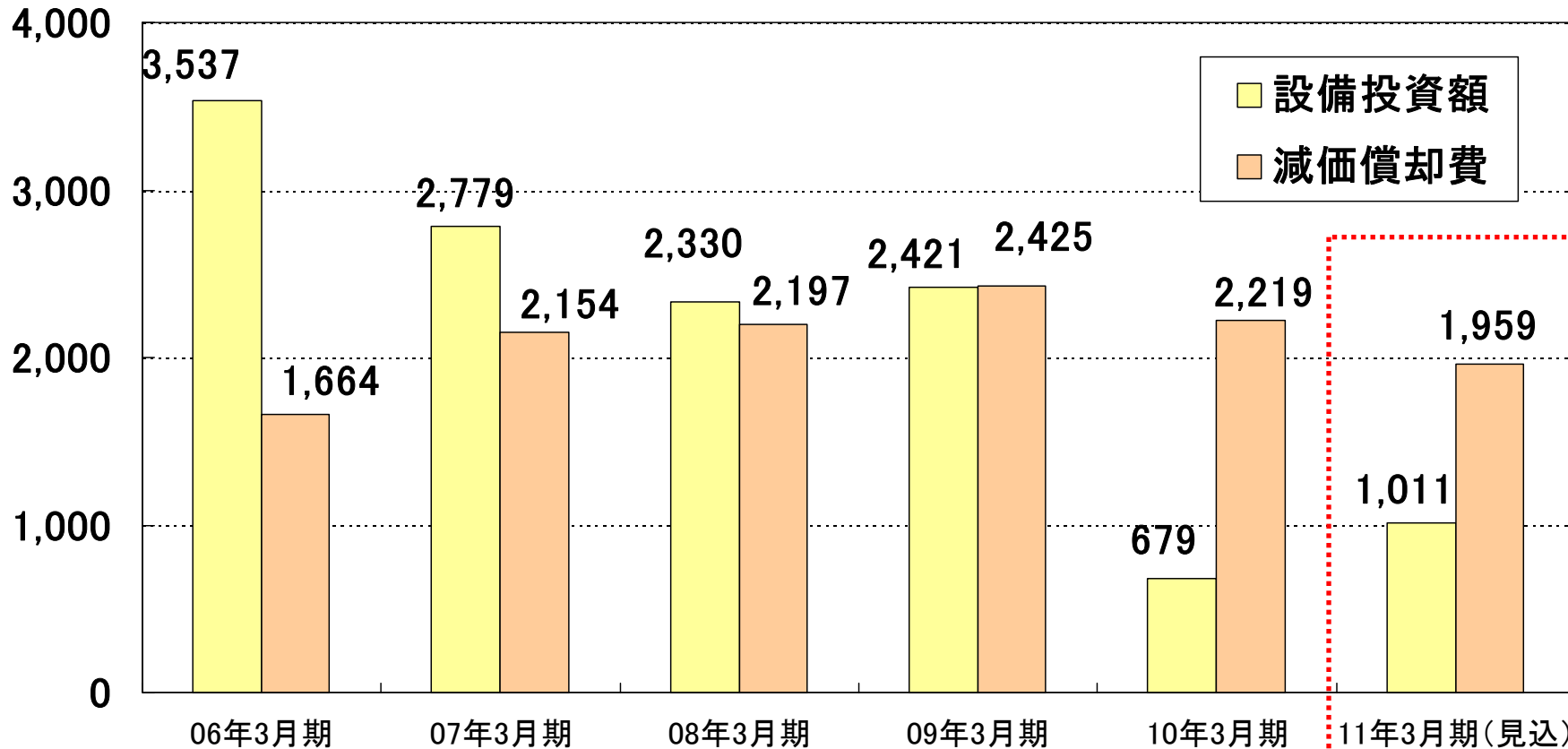
科目 (百万円)	2011年 3月期 計画(連結) 上期(1~2Q)	2011年 3月期 計画(連結) 下期(3~4Q)	2011年 3月期 計画(連結) 通期
売上高	7,000	7,500	14,500
営業利益	350	140	490
経常利益	300	70	370
当期純利益	300	70	370

■ 設備投資と減価償却費の計画

- ・設備投資は生産性向上および安全対策向け投資が中心。
- ・減価償却費は、前期比で260百万円の減少見込。

(百万円)

設備投資額と減価償却額の推移

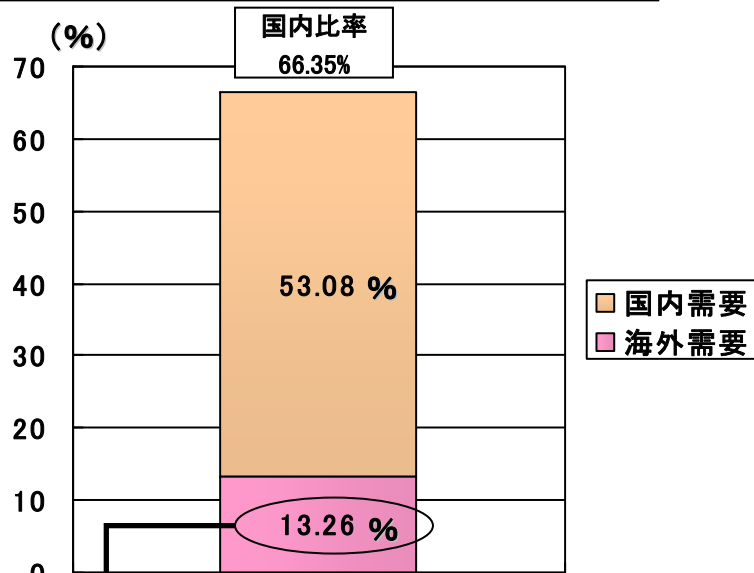
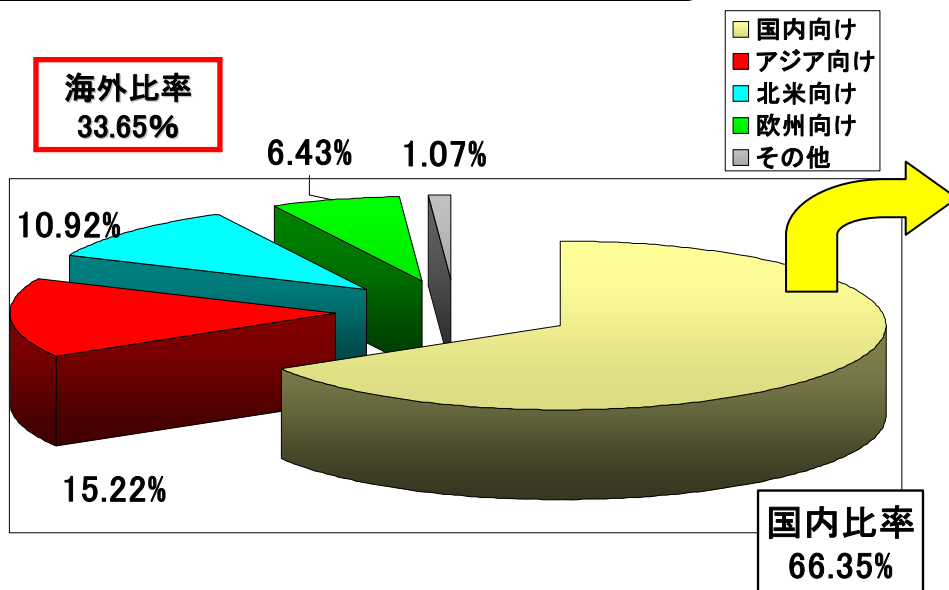


3 . 今後の展望

・当社製品の世界市場との連動性について

- ・当社は出荷ベースによる海外売上比率は33.65%であるが、国内売上には最終製品が海外の需要に起因する取引が含まれる。(国内の顧客が当社製品を加工し、その後海外へ輸出する等)
- ・国内売上の中で、海外需要に起因する売上は全体比で13.26%と推計。
- ・上記数値を加算すると**実質的な海外売上比率は約46.91%**。
- ・海外の感光材ニーズの拡大、香料材料製品の売上増加等が見込まれ、海外売上比率は増加傾向。

2010/3期 地域別売上比率実績

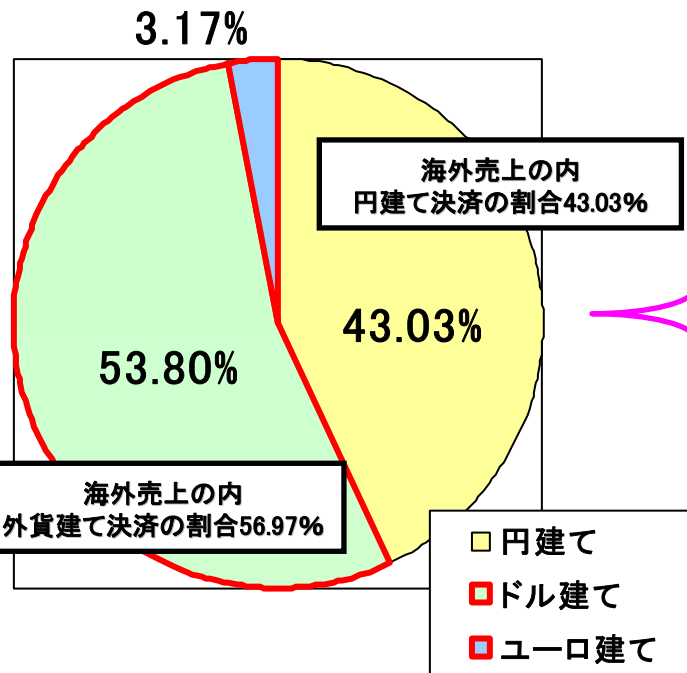


...上記13.26%を加算し
実質海外比率
46.91%

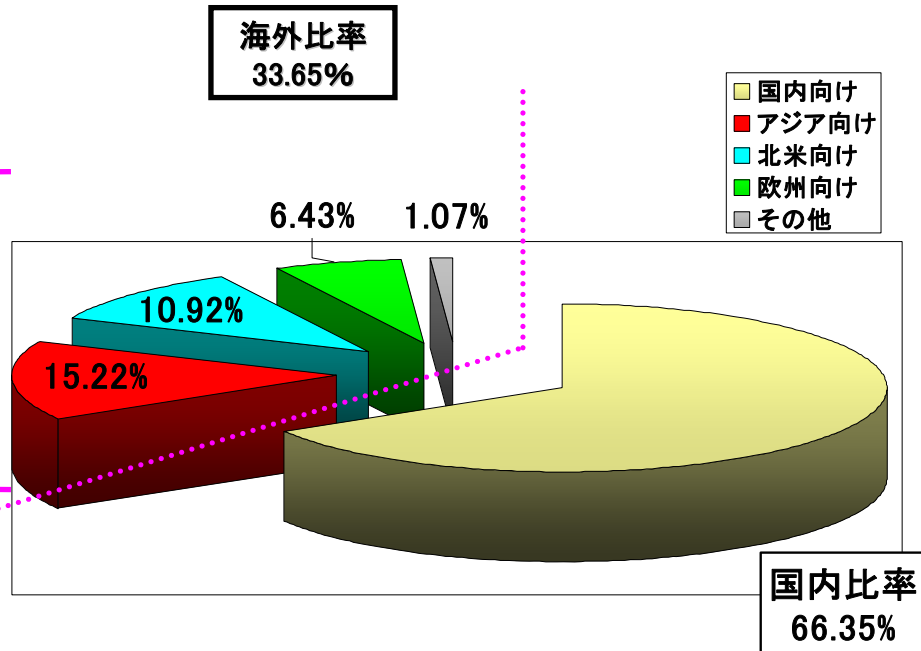
・為替の影響について

- ・当社は海外売上比率は36.65%。
- ・海外売上の内、為替リスクがあるのは6割弱。
円建て決済を行うことにより残りの4割強は為替のリスクをヘッジしている状況。
(例: 化成品事業における香料部門の輸出は、ほとんどが円建て)

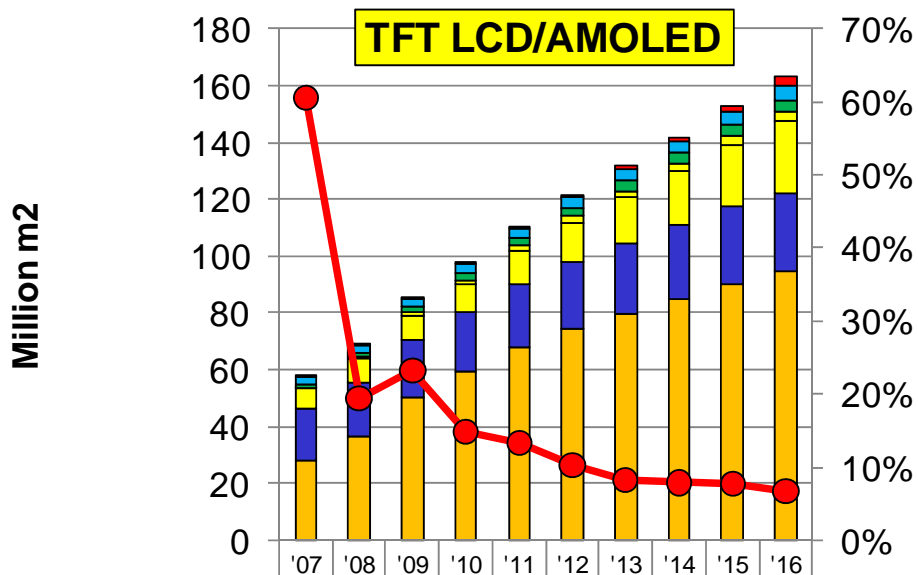
2010/3期 通貨別内訳/海外売上



2010/3期 地域別売上比率実績



LCD面積市場



	'07	'08	'09	'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16
Total	57	69	85	97	110	121	132	142	153	163
AMOLED	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.5	0.9	1.4	2.1	3.5
Other TFT LCDs	2.6	2.8	2.7	3.2	3.6	3.9	4.2	4.5	4.7	4.9
Mobile Phone	1.1	1.5	1.8	2.2	2.8	3.2	3.5	3.8	4.1	4.3
Mini Note PC	0.0	0.4	1.1	1.4	1.7	2.0	2.3	2.6	2.8	3.1
Notebook PC	7.4	8.7	8.6	9.8	11.7	13.9	16.3	19.0	21.9	25.0
Desktop Monitor	18.6	18.8	20.1	20.9	22.4	23.7	24.9	26.0	27.0	28.0
LCD TV+Public Display	27.8	36.4	50.3	59.5	67.7	74.3	79.4	84.8	90.4	94.3
Growth	60%	19%	23%	15%	13%	10%	8%	8%	8%	7%

- ◆ '07年までは年率>50%の高成長が続いた。'09年は'08年を上回る予想外の**23%増**。
- ◆ 2008年から成長鈍化するが、2009年から2016年にかけて面積規模は2倍に。

・LCD用フォトレジスト向け当社感光材の売上は、最終製品であるLCD製品の出荷面積に比例する。

・新興国市場の需要増加を背景に単価は下落傾向にあるが、出荷量の増加でカバー。

LCD面積の増加率予測

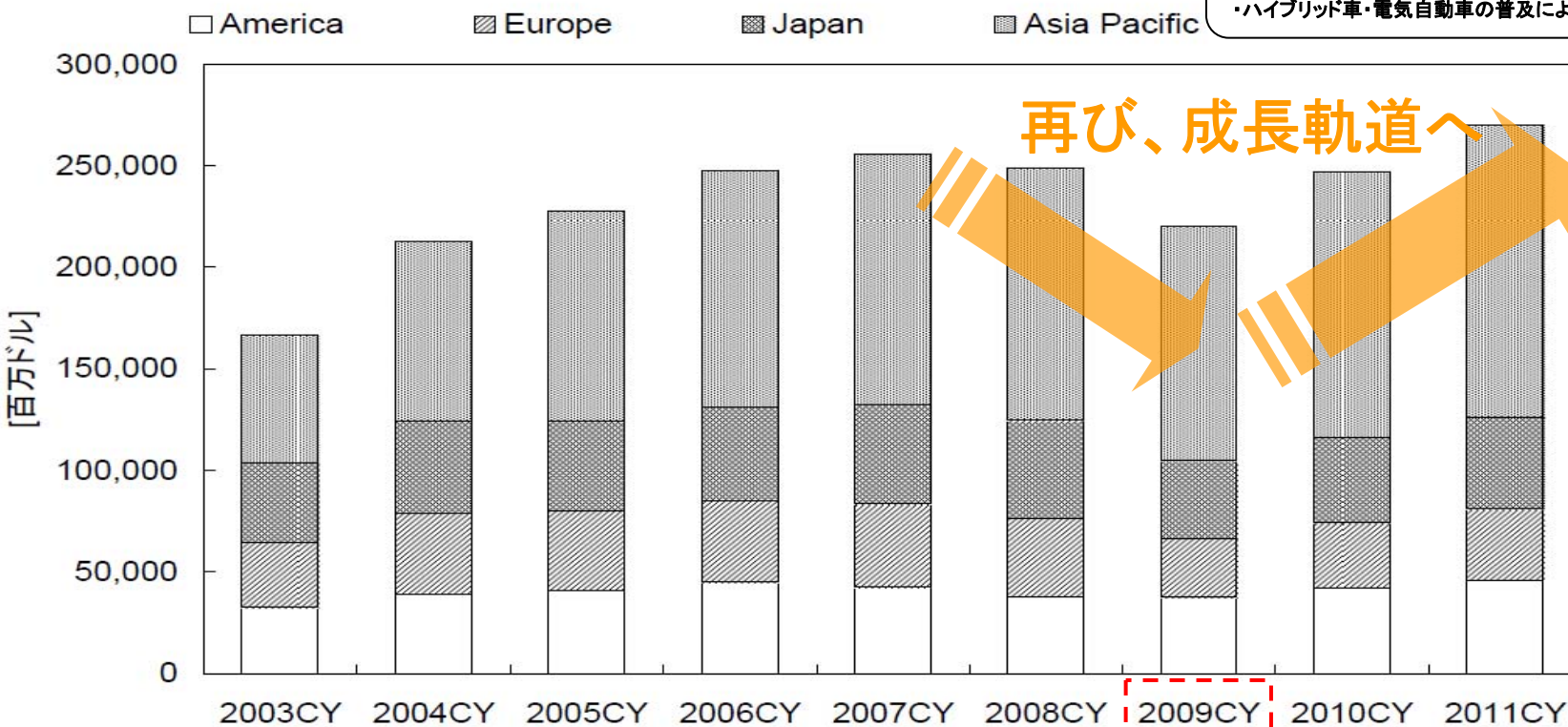
出典：2010 DisplaySearch資料

半導体市場

- 2009年は、1Qを底に回復傾向にあるものの、前年比△11.5%とマイナス成長となる。
- 2010年は+12.2%と成長軌道へ回帰。(直近の予想では2008年レベルに戻るとのこと。)
- 2011年も+9.3%と成長が継続し、過去最高額を達成した2007年の市場規模を超える見込み。

世界地域別市場予測

(市場の予測)
 ・新興国における低価格携帯PC・携帯の爆発的普及
 ・スマートフォン台頭
 ・ハイブリッド車・電気自動車の普及による半導体使用量増



出典: WSTS資料(2009秋版)

FORECAST

■ 感光性材料事業 展望

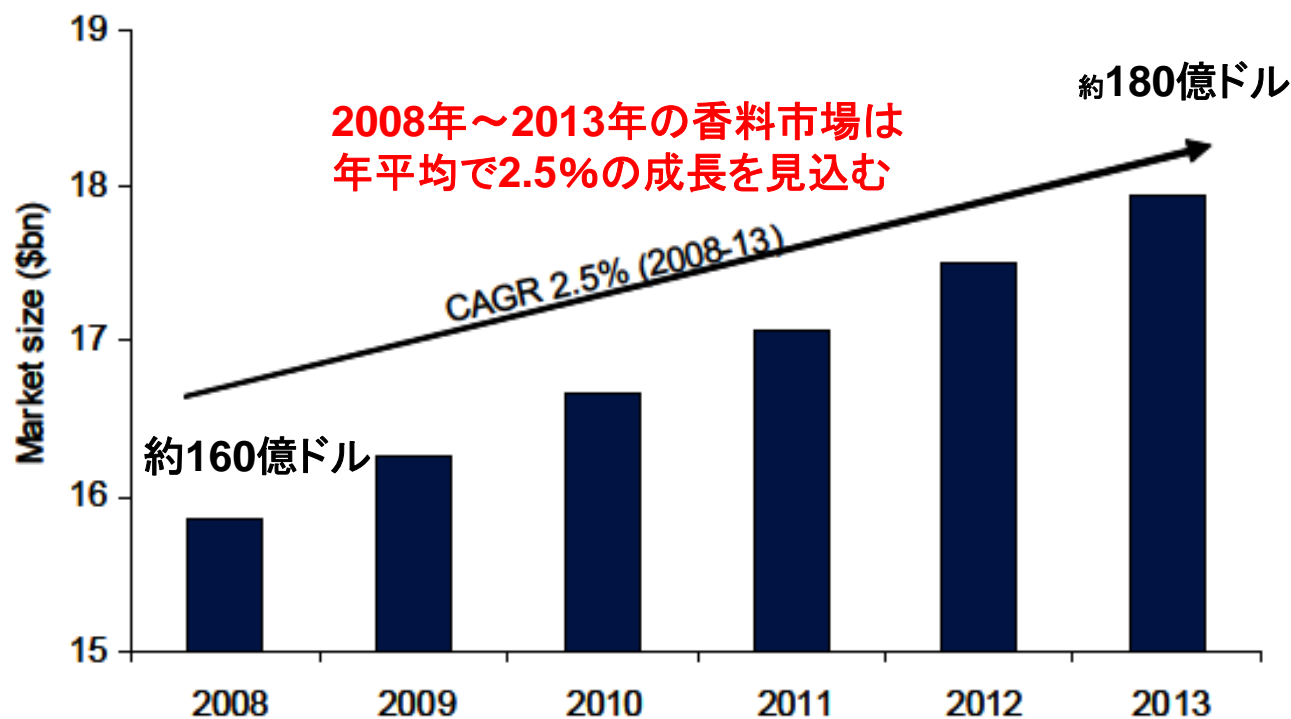
- ・ 半導体市場は本格回復。
- ・ 微細化された半導体のニーズが急速に高まり、レジスト市場は化学増幅系 (KrF・ArF・ArF液浸等) にシフト。

	液晶用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	EUV
ノード	～2000nm	～1000nm	～150nm	～90nm	～65nm	～45nm	～32nm	～16nm
用途	テレビ用パネル	小型パネル	パワー半導体	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ	4コア GBメモリ TBメモリ	最先端メモリ・ プロセッサ
市場	新興国の需要増 価格下落	LTPS (PDA, カーナビ、 携帯電話) の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	急拡大	プロトタイプ露光機 販売中 材料開発中
対策	増産・拡販		生産プロセスの最適化			拡販フェーズ		研究
	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減 ・利益管理体制強化 ・高感度品の開発 		<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上 ・高解像度/ 高感度化 	<ul style="list-style-type: none"> ・高感度化 ・ポリマ設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・モノマー ・ポリマー ・光酸発生材設計 	<ul style="list-style-type: none"> 初期化合物開発、 特許9件出願済み 海外特許2件出願済 高感度・低LER材料 開発中 	

■ 香料材料部門 (香料市場概要)

世界の香料市場規模

Figure 2.1: Global flavor and fragrance market size (\$bn), 2008–13



Source: Business Insights

Business Insights Ltd

■ 香料材料部門 展望

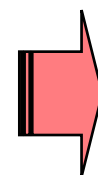
- ・ グローバルな大手香料メーカーに主力製品の販売を拡大。
- ・ 新たな需要に対応するため、生産能力を増強。

市場

- ・ 一時的な在庫調整はあったが、急回復。
- ・ 中国を始めとする新興国の需要は、安価な合成香料のニーズを中心に急拡大。

対策

- ・ 欧州における全化学品に関する安全規則対応
- ・ フレーバー(食添用)の販売強化
- ・ 需要拡大に伴う増産体制



市場開拓
価格競争力強化

■ グリーンケミカル部門 展望

- 環境保全意識の高まりを背景に溶剤リサイクルニーズが増加。
- 電子材料業界の市況が回復し、売上の増加を見込む。(売上は前年比50%アップ)

当社 事業展開

	電子材料業界向け	その他
製品販売	<ul style="list-style-type: none"> ・不純物含有量低減対応 ・液晶、半導体向けに使用される各種溶剤対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・カスタマイズ対応 (精製品及び、合成品)
溶剤回収	<ul style="list-style-type: none"> ・不純物含有量低減対応 ・プロセス溶剤のマーケットニーズに対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷業界・医薬中間体向け ・その他、幅広い業種への対応

当社の強み

- 蒸留50年の信頼、立地、技術、コストパフォーマンス
- ロジスティックとの協業
- 感光材事業の販売ルートを活用

■ ロジスティック部門 展望

- ・ 高付加価値サービスにより売上拡大
-収入としてはタンク使用料およびタンク荷役料。

市場

- ・国内品は荷動きの回復によるタンク荷役料の増加。

対策

- ・短期的契約でなく、長期契約を志向
- ・タンク契約率はほぼ100%を維持
- ・グリーンケミカル部門(回収溶剤分野)との協業強化

■ 新規事業（エネルギー事業） 展望

- 金融危機の影響による設備投資需要の減退により、需要回復待ち
- ニーズに応じたきめ細やかな研究開発

電解液・イオン液体

- 継続的営業活動により、電解液・イオン液体(IL)のお客さま認証の取得
- 電解液は徐々に商業化フェーズに移行したが、金融危機により需要急減
- イオン液体の用途展開が徐々に拡大し、顧客への対応迅速化が必要

市場

電解液

キャパシタ

- 協業体制から商業化へ
- グリーン需要が後押し

対策

- 量産品の販売開始
- 製品ラインナップの充実
- キャパシタとしての製品特性・優位性を確認

イオン液体用途開発

機能化学品として

- (電解質、潤滑剤、添加剤、導電性材料、プロセス化学品)
- ・メタル/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の研究が拡大

対策

- ・量産対応が可能
- ・品質・性能・コスト優位性を訴求
- ・素材メーカーとの協業展開

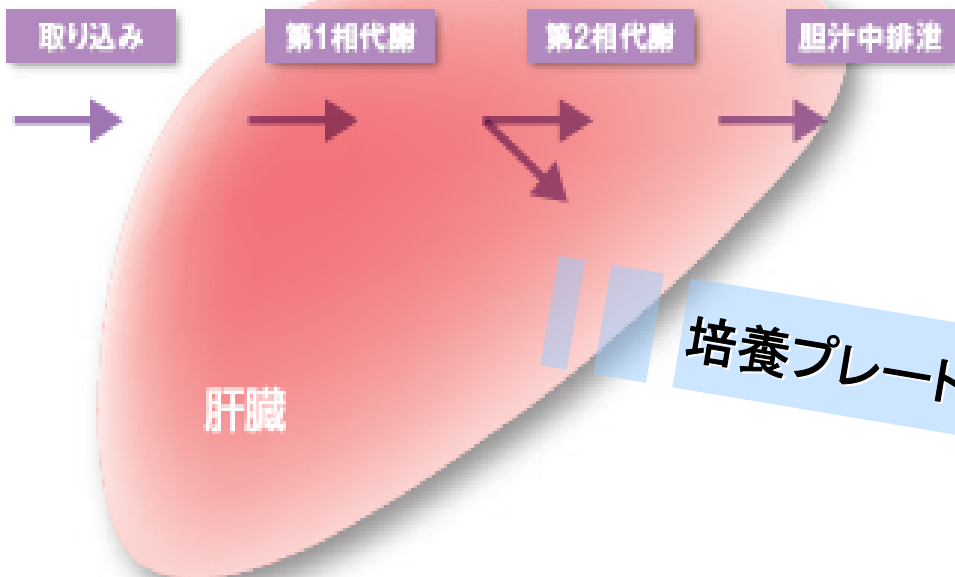
対策

トランスパレント社 展望

- ・ 次世代型ヒト肝細胞の3D培養キット「Cell-able」(セルエイブル) のマーケティングを日本・米国において実施中。
- ・ ヒトの肝臓機能に対する評価をin vitro(=人工的に作られた環境)で可能とし、新薬開発時の効率化とコスト削減に寄与。
- ・ (補足) 当年度(2010年3月期)より、トランスパレント社を連結決算へ組み入れ。

肝臓機能のin vitroでの再現

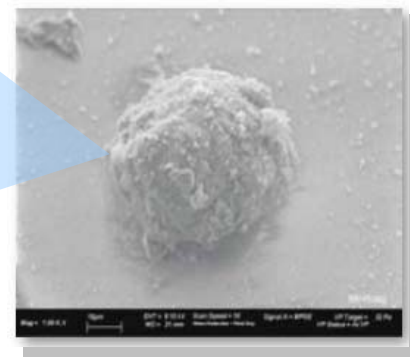
世界初となるトータルな肝機能評価を可能に



肝細胞培養キット



培養プレート上の肝臓細胞





東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。